町長対談 ～箱根駅伝 出場選手を迎えて～

左から宇野博之さん、設樂啓太さん、島田町長、設樂悠太さん、小山司さん

今年の「第88回箱根駅伝」で活躍された、町出身の4選手（宇野博之さん、設樂啓太さん、設樂悠太さん〈以上東洋大〉、小山司さん〈帝京大〉）を迎え、島田町長と対談を行いました。

当日は、箱根駅伝、駅伝競技との出会いや思い出、将来のこと、町民の皆さんへのメッセージなど、和やかなうちにも熱く語っていただきました。

問い合わせ／生涯学習課（☎581・2121内線531）へ。

町長　「町長対談」のために役場へお越しいただきありがとうございます。2011年に東日本大震災が起こり、絆という言葉がクローズアップされる中で、箱根駅伝で寄居町出身の皆さんが爽やかな姿を見せてくれたことは、私をはじめ、町民全体が非常にうれしく、誇りに思っています。今日は、皆さんの駅伝に対する想いと姿を伝えるため、この場を設定させていただきました。どうぞ、よろしくお願いします。

一同　宜しくお願いします。

今年の箱根駅伝に出場して

町長　まず、皆さんにお聞きしますが、箱根駅伝は、何がすごいと思いますか？

宇野　箱根駅伝は、日本の駅伝の中でも一番規模の大きい大会なので、走るだけでもすごい喜びであり、支えてくれる人たちへのありがたみを肌で感じられるすばらしい大会です。

設樂悠　距離が長いです。

設樂啓　一番注目される駅伝であり、感謝の気持ちを忘れずに走る大会で、沿道の人の多さにびっくりしてしまいました。

小山　今年初めて出場して感じたことは、5区の山の奥までたくさんの方々が応援してくれていたということに驚きましたし、それだけ多くの人が注目し支えてくれていたので、大きな大会だと思いました。

東洋大学・優勝への想い ～去年の悔しさを忘れるな！～

町長　東洋大学とすれば、去年の結果（総合2位）を今年雪辱するという目標があったと思いますが、自分のコンディション作りやチームの中の正選手争いもあったと思います。宇野さんにお聞きしますが、どんな思いで挑んだのでしょうか。

宇野　自分自身、今年が4回目で最後の箱根駅伝でした。3年生のときは、年間通して走りに集中できなかった年でもありました。そのようなことが去年負けた原因ではなかったかと思います。4年生になってからは、陸上に対する想いとか姿勢が一転して、けがもなく年間を通じて集中することができました。あのときに負けていなかったら、4年生でこのような結果（大会新記録での優勝）は出なかったのではないかと思います。今回は、正選手争いも非常に熾烈で、練習を1回でも外したら正選手に入れないのではないかというくらい厳しいものでした。その分、練習で力がついたので、箱根も大丈夫であろうと自信が持てました。

町長　その確信は、どの段階で感じたのですか。

宇野　最後の追い込み練習のときに、去年とは比べ物にならないくらいチームの調子が良かったので「これなら大会新記録を狙えるな」と感じていました。

町長　そこまでチーム全体が自己を律して練習していたということですよね。宇野さんは副キャプテンですけれど、チームの気持ちをいい方向に持っていこうという気配りはどのようにされたのですか。

宇野　4年生自体が少ないので、役職にかかわらず他の選手も周りに気を配ってくれましたので、気疲れというものはなかったです。

町長　宇野さんは、1区で区間4位という結果でしたが、どういう感想を持ちましたか。

宇野　満足ではないですけれど、チームにいい流れで、前が見える位置でタスキをつなげることができましたし、監督から言われていた設定タイムよりも30秒ほど記録はよかったです。

町長　設樂啓太さんにお聞きしますが、そのような流れの中で、2区でタスキを受けるとき、宇野先輩の想いのようなものは感じましたか。

設樂啓　そうですね。前が見える位置でタスキを渡されたので、自分の役目をしっかり果たそうと思いました。自分の中では、去年21秒差で負けたことが悔しくて、今年は絶対に勝ちたいと思い、この1年、練習量も増やし、練習の質も上げてきましたので、1年間しっかりできたという自覚がありました。

町長　どのような練習だったのですか。

設樂啓　この1年は長いジョギングや、ペースを速めたり、距離を伸ばしたりしてきましたし、身体のケアをしっかりと心がけてきました。

町長　ベストコンディションを心がけたということですね。では、設樂悠太さんにお聞きしますが、この1年はどんな1年でしたか。

設樂悠　1年生のときは、あまり練習をしませんでしたが、昨年負けてからは、練習への取り組みが変わりました。

町長　どのような練習をしたのですか。

設樂悠　練習が休みの日に川越キャンパス周辺を走るようになりました。

町長　走るときは、兄弟で走るのですか。

設樂悠　1人です。

町長　兄弟でお互いを意識することはありますか。

設樂啓　ライバル心は強いですね。

町長　先ほど、啓太さんは、練習の質を上げたと言われましたが、練習以外で変わったことはありますか。

設樂啓　食事の量が増えました。

町長　悠太さんは、7区を1位でタスキをもらいましたが、その時点で優勝を狙えるような確信はありましたか。

設樂悠　往路の選手が2位と5分の大差を作ってくれていたので、あせらず自分のペースで走ることができました。

町長　練習通りとか予定通りに走ることができそうでできないということが、箱根駅伝のドラマを生むことになるわけですが、そういう中でも自信を持って走れたということですね。

設樂悠　そうですね。

町長　不安はありませんでしたか。

設樂悠　去年の箱根で失敗して不安もあったのですが、沿道の人たちの応援もあり、しっかり走ることができました。

町長　沿道の人たちの応援は、自分の力になるという実感があるわけですね。

設樂悠　そうです。

町長　7区で区間新記録でしたね。沿道で印象に残った風景とかはありますか。

設樂悠　人がたくさんいたことしか覚えていないです。

町長　その声援が一歩一歩前へ踏み出す力になったのですね。いつごろから、今年はいけるのではないかと思いましたか。

設樂悠　箱根に向けた集中練習に

▲設樂　啓太（したら・けいた）　20歳。男衾中～武蔵越生高～東洋大。現在3年生。箱根は2年連続出場。今年は2区を担当し区間2位。